

2026 年度 第 1 回 大阪府がん診療連携協議会 総会 議事録

日 時：令和 8 年 8 月 6 日 14：00～16：40

場 所：大阪国際がんセンター 1 階大講堂

出席者：別紙のとおり

1. 各専門部会の活動報告 資料参照

①がん登録・情報提供部会：宮代部会長

国立がん研究センターの登録変更スケジュールへの対応と実務者支援、大阪府独自のデータを用いたモニタリング、二次医療圏へのデータ提供について報告された。

②緩和ケア部会：天野部会長

PDCA サイクル手法による質改善、PEACE 研修会等の継続、および神経ブロック提供体制の整備計画について報告された。

③栄養部会：飯島部会長

施設間の連絡体制の整備、定点調査の計画、アンケートに基づく研修会、診療報酬改定（栄養管理体制加算等）への対応状況について報告された。また、期限内の返信、交代時の引継ぎ、情報共有の徹底を促された。

④がん相談支援部会：池山部会長

ピアサポーター養成・活用、PDCA チェックリストを用いた全国比較と振り返り、2027 年 1 月からの新相談記入シート導入、就労・両立支援の取り組みが報告された。

⑤希少がん部会：大植部会長

ロジックモデルを用いた中間評価（ホットライン件数増、ページビュー数減等）の結果、近畿希少がん連携協議会とのネットワーク化、および各施設への実績データ配布について報告された。

⑥がん看護部会：山根部会長

ELNEC-J 研修の継続、アピアランスケアをテーマとした多職種交流会、高齢者総合機能評価セミナー、訪問看護ステーションとの連携強化について報告された。

⑦薬物療法連携部会：高木部会長

薬剤師の外来診察前面談の定着、「大阪版トレーシングレポート」の浸透、CSTD の使用状況、「大阪版 ICI 注意喚起お薬手帳用ラベル」の永続的運用決定について報告された。

⑧地域連携部会：松浦会長

高度・特殊な治療の集約化・連携、BCP 対策、拠点病院の集約化に関する議論へと役割を移行させる方針が示された。

⑨小児・AYA 部会：橋井部会長

若年がん患者の在宅療養支援事業の普及、AYA 世代の意思決定支援、妊孕性温存支援、および患者の医療参画について報告された。

⑩リハビリテーション部会：資料配布による報告。

⑪がんゲノム医療部会：西村部会長

がんゲノム医療中核拠点病院指定要件の改正、遺伝性乳癌卵巣癌症候群の未発症者への保険適用拡大、先進医療 A の開始状況、造血器腫瘍パネル検査の運用課題について報告された。

2. 各医療圏がん医療ネットワーク協議会からの活動報告

☞資料参照

①豊能医療圏：市立豊中病院

将来人口推計に基づく資料作成、地域連携シートの運用、薬物療法・ゲノム部会や栄養・リハビリ部会の新設による体制再編について報告された。

②三島医療圏：大阪医科薬科大学病院

対面開催の再開、在宅医療の現状報告、エクササイズや音楽療法を取り入れた相談支援、在宅緩和ケアマップの更新について報告された。

③北河内医療圏：関西医科大学附属病院

守口敬仁会病院の参画、合同がんサロンの開催、ACP 情報共有の試行運用、がんに関する絵本作成について報告された。

④中河内医療圏：市立東大阪医療センター

他医療圏との ELNEC-J 合同開催、地域性に応じたがん登録データの分析、クリティカルパスの継続的な重要性、ピアサポーターを交えた交流会について報告された。

⑤南河内医療圏：大阪南医療センター

高齢化への対応、看護師対象の ACP 勉強会、非がん系医師への PEACE 研修の普及、ICI お薬手帳ラベルの情報共有について報告された。

⑥堺市医療圏：大阪ろうさい病院

遺伝カウンセリングをテーマにした研修、著名人を招いた緩和ケア普及イベント、消防・行政と連携した ACP ワーキンググループの活動について報告された。

⑦泉州医療圏：市立岸和田市民病院

IrAE 対応の連携一覧表作成、骨髄移植セミナーへの大阪母子医療センターの参画、がん看護部会マスコットの作成について報告された。

⑧大阪市医療圏：大阪市立総合医療センター

医療機能を検索できる HP の公開、市民公開講座の集約、アピアランスケアの多職種交流会、セカンドオピニオン対応状況の公表について報告された。

3. 大阪府の今後のがん診療提供体制について

大阪府がん診療連携協議会 会長 松浦 成昭

☞資料参照

将来予測：大阪府では 2045 年まで罹患者数・高齢患者数が増加し続ける予測であり、急激な集約化よりも、まずは実勢データの公表と各医療圏での丁寧な議論が必要であるとの方針が示された。

検討事項：手術、放射線、薬物療法の各分野において、アクセスの確保と質の向上のバランスを考慮し、地域連携部会に設置する各ワーキンググループで具体的に検討していくことが示された。

4. がん診療連携拠点病院等の新規指定要件について

大阪府がん診療連携協議会 会長 松浦 成昭

☞資料参照

主な変更点：がんゲノム医療連携病院の指定、緩和ケアチームへの管理栄養士の参画、リハビリに携わる医師の配置、アピアランスケアの体制整備などが必須または望ましい要件として追加された。

スケジュール：8 月に説明会、9～10 月に現況報告書の提出・審査が行われ、来年 4 月から新要件に基づく指定が適用される予定。

5. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の報告

大阪府がん診療連携協議会 会長 松浦 成昭

☞資料参照

国の方針：2040 年を見据えた「均てん化と集約化」が大きなテーマであり、都道府県レベルでの集約化や、二次医療圏レベルでの集約化の検討が求められていることが報告された。

評価指標：クオリティ・インディケーター研究や患者体験調査の継続実施についても共有された。

6. がん教育について

大阪府がん診療連携協議会 会長 松浦 成昭

☞資料参照

実施状況：府内の府立中学校・高校でのがん教育実施率が 99.1%に達し、多くの拠点病院から講師が派遣されていることが報告された。

今後の課題：外部講師アンケートに基づき、事前調整の充実や講義内容の難易度調整を行い、次期 6 ヶ年計画でも継続していくことが示された。

7. その他

今回の総会は、令和 9 年 3 月 15 日 14 時より開催予定であることが案内された。